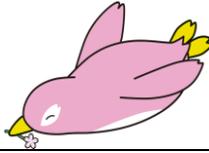




中台中学校

中台だより 第2号



発行 板橋区立中台中学校

発行日 令和7年6月3日

さくら草学びのエリア 中台中学校・中台小学校・若木小学校

*「中台中学校だより」は中台中学校のホームページにも掲載しています。

第67回 中台中運動会!

校長 宮澤 一則

5月24日(土)に令和7年度第67回中台中学校運動会を開催しました。曇っていましたが、熱中症の心配をしないで実施できたので、ホッとしました。保護者の皆様や来賓の皆様には、朝早くからお出でいただき、生徒たちに温かい声を掛けていただきました。本当にありがとうございました。

生徒たちは、実行委員を中心に各学年で練習を重ねてきました。短い期間でしたが、本番では、その成果を存分に発揮してくれたと思います。特に嬉しかったのは、「気を抜く生徒」や「あきらめる生徒」がいなかったことです。どの競技にも全力で取り組み、互いに励まし合っていた姿には感動しました。また、競技だけでなく、各係の生徒たちも「何か仕事はありませんか?」と聞いてまわるなど、主体的に活動していました。今年の運動会のスローガンは、「信懸笑舞」(しんけんしょうぶ)ですが、どの生徒も思う存分、一生懸命取り組みスローガンを実現していたと思います。

9年生が手本となり、全体をまとめていたので、その姿を見て後輩たちもよき伝統を引き継いでくれることを信じています。



「さくら草学びのエリア」研修会

5月8日(木)の午後「さくら草学びのエリア」研修会を実施しました。板橋区では小中一貫教育を行っており、中学校区ごとに、エリアをつくって9年間の系統的・継続的な教育を進めています。中台中学校では「さくら草学びのエリア」という名称で、中台中学校・若木小学校・中台小学校の3校で取り組んでいます。

5時間目は中台中学校の授業を小学校の先生方に参観していただき、6時間目はグループに分かれて協議会を開催しました。グループは「ICT」「生活指導」「不登校支援」「業務改善」の4つで、それぞれの学校での取り組みを紹介しながら各学校での工夫・改善に活かすことをねらいとしました。例えば、「業務改善」では行事



をスリム化することや、人材活用など、今後の教育活動に参考となるものが紹介されました。また、ChatGPTの活用など、今後課題となりそうなことについても情報交換することができました。

教育長ふらっと訪問

5月1日(木)に板橋区教育委員会 長沼 豊 教育長が中台中に来てくれました。長沼教育長は、多忙な中、時間を割いて多くの小中学校を訪問し、実際に学校の様子を見てくれています。中台中を訪問した際も、校長の話聞いていただき、すべてのフロアをまわって、授業の様子を見ていただきました。この時の様子が、板橋区教育委員会のホームページに掲載されていますので、その一部を紹介させていただきます。

なお、詳細については、現在も板橋区教育委員会、小学校・中学校の情報、学校訪問のページで探していただくか、次のURLで見ることができます。

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuinkai/gakko/houmon/1057533/1057916.html>



5月1日(木曜日)中台中学校を訪問しました。教育長ふらっと訪問になります。

本校の教育目標は「自主・責任・協調」で、校訓は「よく考えて行動し 責任ある行動のもとに 互いにはげましあって 心と体をきたえよう」です。

本校では教科センター方式を導入して10年になります。教科センター方式とは、授業を実施する「国語教室」や「数学教室」といった各教科の専用教室と、各教科の教材や展示物を設置できる「教科メディアスペース」と呼ばれるエリアがあり、各教科の学びを深めることのできる方式のことです。現在区内の3つの中学校で導入されています。

この方式では、大学の授業のように生徒が授業ごとに教室を移動しますので、異学年の生徒が教室や廊下で頻繁にすれ違うことになります。授業の様子を見ることもあります。これにより、9年生の姿を見た7年生がそれを模範として、しっかりとした学校生活を送るようになるということです。

同学年だけでなく、異学年の児童生徒がお互いに学び合う、これが学校教育の良さだと私は思っています。かつて1980年代に全国的に中学校が荒れた際、異学年の生徒ができるだけ校舎内で会わないように、他の学年の教室のある階には行かないようにと厳格に指導した時代がありました。今は、そのような時代ではありません。教科センター方式ではない中学校でも、また小学校でも、同じ学年の児童生徒は同じ階の教室にという「学校の当たり前」を見直しても良いのではないかと思います。

宮澤校長に案内されて、校舎内を見て回りましたが、どの教室でも生徒が落ち着いて学びに向き合っていました。ほとんどの教室は廊下との境に壁がありませんので、直ぐに横から教室の様子を観察することができます。

当日はちょうど67回目の開校記念日でした。本校のますますの発展を期待しています。

(本文を一部抜粋)